

おらほノ魂

特集 第4回

神代地域

仙北市の南方中央に位置する神代地域は、多くの田畑を有する米どころ。屋敷杉に囲まれた農家が点在する、田園風景が広がります。豊かな自然に囲まれ、特色豊かな神代、様々な魅力の中からいくつかをご紹介します。



先人から引き継ぐ、 豊かな文化への思い

仙北の地には数多くの郷土芸能が生まれ、継承されてきました。神代地域にもお囃子や踊りの「組」があり、近郷と共に角館のお祭りに深く関わり、その一役を昔から担っていました。

角館のお祭りは囃子手、踊り手が「聞かせるため」「見せるため」の場所となり、お互いにその芸を磨き、競い合い、育てて行き、芸能の盛んな地域を、生みだしていったと思われまます。

神代のこうした土壌は、横笛の名手「佐藤清賢」、秋田おばこの女王「佐藤貞子」親子をはじめ、八人芸を演じた津嶋留吉さんなど、多くの芸人を輩出しています。



「神代地域」

「高橋キヌ子社中」 引き継がれる芸能



丁寧な指導が続きます

高橋キヌ子さん

佐藤貞子から直接踊りの指導を受け、現在高橋キヌ子社中で、指導を続ける高橋キヌ子さんの稽古場へ、小さな踊り手たちが集まります。
「指先伸ばして、しっかり腕を上げて」キヌ子さんの教えに、かわいらしい踊り手たちは、一生懸命に踊ります。
現在、自宅での稽古、生保内での稽古の他、湯沢市などを含めると50人を越えるお弟子さんになるとか。
名人の技が次の世代に引き継がれていきます。

新しい力「安藤兄弟」 地元芸能への思い



安藤恵介さん 安藤陽介さん
県内外はもちろん、海外でもご活躍の安藤兄弟
地元芸能へのコメントを寄せてもらいました。

芸能の宝庫

「梅沢ささら保存会」 楽しみ、伝える伝統



佐竹公のお国替えの際、厄払いの舞が伝わったとされる「梅沢ささら」8月13日から、先祖の供養、五穀豊穡、家内安全など祈願し行われます。

「梅沢ささら保存会」の代表大山哲夫さんは「梅沢ささらは手踊りに似た特色があると思う。昔の人はこの踊りを良く考えたモノだ。自分も40年以上踊っているが、完璧だと思った時はないと語ります。



「梅沢ささら保存会」
代表 大山哲夫さん

「現在の活動は6〜7人。人手不足はあるが、練習にすぐ集まってくれる、ささらが好きなんながいるから活動できる」と大山さん。「大切な地域芸能だが、気負ってばかりで無く、楽しんで続け、伝承に繋がればと、自然体で取り組んでいます」とも。踊りの動きを見せてくれたながら、「お盆に向け、そろそろ練習の段取りを」と目を輝かせている大山さんでした。

最近、いろいろな地域の郷土芸能の方々とお話しする機会が非常に多くなりました。伝統芸能の後継者のお話は、切っても切れない問題です。
また昔から伝承される一度も聞いたことのない郷土芸能であっても、不思議と心地よさを感じます。そういった芸能がなくなっていく中、子どもたちにも『やってみよう！』と思

わせるような演奏をしたいと心がけています。
自分らは創作太鼓や篠笛をメインにした曲を作り演奏していますが、いずれは地元の郷土芸能の一部となるよう活動していきたいと思っています。
そして今後は、秋田の風土を感じさせられる曲も作って行きたいと考えています。

ボランティア活動は伝統行事

4つの柱で先輩から後輩へ

「自ら判断し、思いやりの心を持ち、たくましく生きる生徒」を神代中学校（清水睦男校長）では教育目標に掲げています。この目標に向かい、特色ある教育活動を行っています。全校生徒が参加する地域に根ざしたボランティア活動、「地域清掃活動」「アルミ缶・プルタブ回収」「抱返りクリーンアップ」「除雪ボランティア」。これらは『4つの柱』と呼ばれています。

春 クリーンアップ活動
地域の環境を考えてみよう



担当する佐藤義紀先生は「生徒の中でも、先輩から後輩へ活動時のアドバイスなど生徒間のつながりにも良い影響が出ています」と、この取り組みへの効果を感じています。地元の人からも「あいさつがとてもいい」と、生徒への印象も高評価です。



夏 アルミ缶・プルタブ回収活動
収益金を福祉に役立てよう



秋 抱返りクリーンアップ
郷土の財産を守ろう



冬 除雪ボランティア
人と人とのつながりを大切にしよう



「これらの活動を通じて生徒たちは様々なつながりを学んでいきます」と佐藤先生。そのつながりに欠かせない『あいさつ』から、活動を通じた成長が伺えます。

地域の環境整備から基幹産業へ活力を

～若者会の運営体入り実現～

神代地域運営体は、昨年9月に設立され、現在、生活環境支援部、福祉支援部、産業振興支援部、伝統文化支援部の4部門を柱に活動しています。

運営にあたっては、正副会長、支援部正副部長と理事で構成された役員会が決定機関です。常に合議制のもとに支援部ごとに計画から実施まで、5年先を見越した計画で精力的な活動を展開しているところです。また、この運営体制度の今後さらなる充実、発展をしていくことを切に願っているところでもあります。



自主防災マップを作成し自主防災意識の向上をめざします。

『生活環境支援部』では防災マップの作成に着手しています。「神代は集落が点在し、面積も広い」と細川会長。自分たちの地域は自分たちで守ろうという意識の高まりを感じます。

『産業振興支援部』では、昨年、冬がっこコンクールや山の芋創作料理コンクールを行い、大いに盛り上げをみせていました。

神代の基幹産業は農業。農家に活気が戻るように時間をかけてやり遂げていきたいとの思いで、今年度も地産地消を軸として地域の活性化をめざします。



冬がっこコンクール。45人から112点の出品がありました。



除雪ボランティア出陣式。高齢者や一人暮らしを守るため、42人の隊員が登録しています。

『福祉支援部』の冬の一大事業、除雪ボランティア。昨年のような豪雪では除雪作業も一苦労です。ボランティア隊を登録制にし、40人以上が高齢者や一人暮らしの家庭の除雪活動を行いました。今年度はより充実し、行政とも連携した活動を行います。



神代小学校児童からデザインを募集し、案内看板を作成。「活力ある神代の創造」のシンボルとしての役割も担います。

『伝統文化支援部』では、地域の伝統文化財産の発掘と保護、継承を担っていきます。梅沢ささらの獅子頭の修復も終え、これからが本番です。

若者会も参加し次世代へ

地域の運動会を復活させたいとの話から若者会（神友会）が運営体の活動に参加。「他ではなかなかないと思う」と嬉しそうに話す細川会長は、「若い人たちを育てて、次のバトンを渡すことも任務とと思っている」と語ってくれました。



会長 細川俊雄さん

「今の地道な活動が数年後、今の数倍もの効果を産むと信じている」

郷土が生んだ作曲家
平岡均之（1901～1976）

本名、均。昭和3年に文部省が公募した大札奉祝歌で、見事1位に入選。この年郷里小松小学校50周年を記念し制定した校歌の作曲もしています。

奉祝歌の入選を機に、教職の傍ら音楽家としても活動。代表作「若葉」（松永みやを作詞）は、文部省唱歌の名曲として愛唱され今に伝わります。功績を讃え、神代中学校隣接地に音楽碑が建立されています。



辰子生誕の地 院内「辰子屋敷」

永遠の美しさを願い、田沢湖の主になった「辰子」。田沢湖に伝わる伝説の主人公辰子の生まれた地が神代字院内岡崎字神成沢にありま

その家は「辰子屋敷」と呼ばれ院内地域の奥に静かにたたずんでいます。

毎年、たざわ湖龍神まつりに合わせ地元「院内辰子を守る会」の皆さんが神事を行い守っています。



地域芸能の礎 佐藤清賢、貞子親子

秋田おばこの女王と呼ばれ、全国に秋田民謡を広めた娘、貞子。読み書き、そろばんが達人な上、横笛は近隣に並ぶ者無しと言われた父、清賢。二人の一座は東京での全国芸能競演会で、見事1位に輝きます。

貞子の名はその美声と共に全国に知れ、清賢にも時の東京府知事より「嬉遊軒笛王斎叶山」の称号が与えられました。親子はその後、全国を興行して歩きます。

仙北地域の郷土芸能を語る際には、欠かせない存在です。

金峰神社

元正天皇養老2年（718年）創立。拝殿は宝暦2年、本殿が大正10年に建立。仁王門に安置されている仁王像は1本の杉の巨木で2体の仁王像を彫刻したものです。参道並木は昭和59年に秋田県文化財に指定されました。

